

日本災害看護学会先遣隊 令和元年台風第 19 号活動報告東北地区（宮城県）

活動メンバー：白井千津、佐々木久美子、太田晴美、窪田直美

1. 活動概要

- 1) 活動日時：令和元年 10 月 15 日（火）8:00～22:30
- 2) 活動場所：宮城県（宮城県看護協会、大郷フラップ 21 避難所、等）
- 3) 活動目的：先遣隊活動、避難所集約のための避難所開設支援
- 4) 調査地区の特性

大郷地区は高齢化率 35%程度ある。被災にあった地区はさらに高齢化率が高い状況。

5) 活動場所（宮城県大郷避難所）周辺の被害状況

吉田川の決壊にて大郷地区が被災した。中粕川、土手崎、三十丁が浸水被災している。今回、避難所が集約され、入所した避難所住民は 104 人となった。今後、応急仮設住宅は 50 件程度ソフトボール場に建設予定。行政の聞き取りにて、半分程度の方が自宅再建を目指している状況とのこと。

2. 活動の概要

- ・ 宮城県庁に連絡調整し、仙台駅周辺から県看護協会会長訪問・面談後、塩釜保健所黒川支所訪問し支所長と面談後、大郷フラップ 21 避難所開設支援活動を行なった。
- ・ 塩釜保健所黒川支所にて黒川支所長と面会し、大郷フラップ 21 避難所開設支援活動を行なった。

3. 活動の実際

日時	行動	内容
9:30	県庁に丸森地区の支援状況確認	・ 丸森地区での支援状況を電話にて県庁関係者に確認した。 ・ 現段階では DMAT と保健師チームが支援に入っていることを確認した。
10:30	宮城県看護協会長訪問・面談	・ 災害支援ナース派遣依頼。
11:00	塩釜保健所黒川支所・支所町訪問・面談	・ 塩釜保健所黒川支所訪問し支所長と面談後、大郷フラップ 21 避難所へ移動。 ・ 16 日 10 時には健康調査、栄養調査を実施する予定。
13:00	大郷避難所集約・避難所開設準備	・ 100 人と 20 人程度の 2 箇所の避難所集約により、フラップ大郷 21 に避難所を開設のため支援実施。 <b>【体育館の避難所の状況】</b> ・ 避難所は普段は社会人ハンドボールチームが使用している施設であり、大きな体育館。 ・ 玄関は自動ドアで間口も大きく、バリアフリーで、靴は上履きに履き変えができています。 ・ トイレは 1 階に男女 2 箇所、身障者対応トイレ 1 箇所、2 階に男女 1 箇所

所あるが、女子洋式トイレが1箇所故障中。

- ・ 女子は、洋式トイレは身障者対応が1箇所、和式が3箇所のみ。男子は男子小便器6箇所、大便は4箇所。
- ・ 高齢者が多い。
- ・ 体育館入口は北西2箇所で、その入口付近にトイレあり。
- ・ 南東の入り口から、物資搬入し、体育館の南東側に物資置き場を設定。
- ・ 体育館はバレーコート3面程度が設置できる広さ。

#### 【ダンボール製の仕切りを設置】

- ・ 50箇所を設置したが、体育館に敷く緑色の養生シートを敷いた方が傷付かなくて良いとのことや防寒等にもなるため、仕切り直しを要望した。
- ・ 緑色の養生シートを全員で（行政、社協、保健師、学会それぞれ）全面に敷き直した。
- ・ その後、緑の養生シートを養生テープで貼りながら、段ボールの仕切りとマットを50箇所設置。
- ・ 養生テープは住民がつかずいて転倒しないように配慮する必要があることを伝えながら養生した。
- ・ 間隔は1.5M程度、3つ設置して3Mの間隔を設け、通路が分かりやすいようにした。
- ・ 9つを1つのユニット的な状況にして、地域ごとも考慮し、足腰の弱い方、夜間尿がある方、排尿が近い方については、トイレに近い北西の入り口に配置することを検討していた。
- ・ また、少人数で対応しなければならない精神疾患を有する住民や、思春期でメンタル面に配慮が必要な高校生、中学生の家族には、他の住民と接触しない個室に近い対応を検討していた。
- ・ また、2階部屋にも配慮が必要な住民を対象にした部屋について検討されていた。
- ・ 体育館の玄関に近い入り口側には、物資置き机を配置し、健康相談コーナーを配置した。反対の入り口側には、携帯充電基地、Wi-Fi、食堂コーナー、湯沸かしポット、配食するためのコーナー等が配置された。
- ・ 玄関の入口には、受付を設置し、名簿等の準備がされた。
- ・ トイレには石鹸と擦式消毒剤、手洗い励行のポスターの張り紙を実施。
- ・ トイレの表示を大きくし、トイレにトイレットペーパーのみならず、生理用品、リハビリパンツ等の配置を行なった。
- ・ ゴミ箱の配置、分別の仕方の提示・サインも掲示した。

- ・ 掲示板の設置、テレビの設置もあった。
  - ・ 住民は 14:30 頃ころから、他の避難所から移動してきており、入居を待っている状況となっていた。
- 16:15 避難住民の部屋への入居
- ・ 町保健師、行政担当者に協力し、入居者を 1 世帯ごと、受付順に住民の心身状況を確認しながら、部屋割りを実施。
  - ・ 第一段階は 77 人ほどであったが、本日の入居希望された方は最終的には 104 人となった。予定人数より 15 人程度少ない状況となった。
- 17:30 長靴収納のための玄関整備
- ・ 住民は長靴を履いて泥作業をしているのか、泥のまま玄関に入るため、玄関にも靴から落ちた泥がある状況。
  - ・ 下足箱の一番上の上部に廃品利用したビニールを敷き詰め、今後、新聞紙を敷き、長靴への対応について検討。
  - ・ スリッパが履かれる状況となっており、転倒リスクが高まる。
- 18:30 夕食配食（おにぎり）
- ・ 食事前に放送を実施し、手指消毒剤を必須にしていた。また、取りに行けない状況では、配食する旨を伝えていた。
  - ・ 味噌おにぎり、栗いなりの 2 個だった。水とともに配食されたが、男子高校生には量が少なかった印象である。
- 19:00 経済産業省の指示で段ボールベッド 50 ケ配送
- ・ 業者から段ボールベッドの組み立ての説明と、希望住民への配布。(本日の希望者は 5 個程度)
- 20:00 トイレの巡回
- ・ トイレは清掃が十分でなく、明日からの清掃を検討する必要がある。
  - ・ トイレの清掃用具の整備や感染症対策についても検討の必要性あり。
- 21:30 消灯（1/5 灯）ミーティング
- ・ 保健師、行政担当者 5~6 名、日本災害看護学会先遣隊が参加した。
- 【内容】**
- ・ 自治会運営は区長を中心と言われても多忙でもあるし、被災した自宅の片付け等からも困難な状況であることが地区会長から返答があった。
  - ・ 現段階では行政が避難所のルールや、スケジュールを決定して欲しいとのこと。
  - ・ 本日は 18:30 に夕食を配食し、2 時間ルールとして 21:30 に廃棄とすることを徹底する。
  - ・ 部屋割りの時点での要配慮対応と、居住地区を固めたことについて保健師より説明があった。
  - ・ 明日、避難所の施設利用のルール等について、問い合わせがあれば、避難所の配置について説明いただきたい。
  - ・ 灯油は危険なため非常口階段の下に収納し、立ち入り禁止とした。

- ・ 今後は経済産業省の調整でストーブが 10 基調達予定、現在あるストーブは返却予定。トイレも和式が多いことから、洋式トイレの変更と、故障したトイレへの対応依頼済み。
- ・ スリッパは危険であるが、寒くなってくるので今は使用できるようにしておくこととする。転倒には注意するように啓蒙していく。
- ・ 長靴の泥を落とせるように、玄関横の水道で洗浄してから玄関ホールに入ってもらえるように対応必要。

#### 【不足の物品・対応について】

- ・ 感染予防対策物品（ペーパータオル、ゴミ箱、ハンドソープ、擦式手指衛生剤）等の不足への対応。
- ・ 熱発、咳の住民の方への個室対応も検討が必要。
- ・ トイレ清掃をどのように当番とするかを検討する。
- ・ 分別用の専用ゴミ袋の補充。
- ・ 残飯対応が必須。

#### 【先遣隊よりの意見と提案】

- ・ 日々の組織図を作り明示する。統括担当職員は責任を持って担当する。
- ・ PC とプリンターを 2 台ずつ準備し、同時に記録をしていく必要がある。
- ・ 行政職員も身体を休めて、食事・睡眠・入浴等の生活を整えていくことが重要と伝えた。
- ・ 東日本大震災の時、カップ麺の汁を捨てると言われて全部飲んでいる方がいたので、捨てられるようにしていただきたいことを伝えた。
- ・ 住民と行政との関係構築が重要なこと。
- ・ 時間が経過すると避難所のスペースを再構成していく必要が出てくるため、順次移動があることをあらかじめ伝える必要がある。
- ・ 河北新報の方への協力も必要。
- ・ 自販機も災害対応としていただく等、要望していくことも検討してはどうか。
- ・ 食事の炊き出しも必要である。自衛隊などの支援も要望してはどうか。
- ・ 感染症対策の方の対応は検討が必要（短期間で対所する予定の方がいることから、2 階を集約した後、2 階の会議室に設定する予定）。
- ・ 車中泊者へのラウンドが必要（2 家族寝ている状況）。
- ・ ベット対応が必要な住民もいるかの確認。
- ・ ロビー等、クッションなどの養生マットを敷くと寒さ対策等にもなる。

### 【保健師から今後の予定と留意事項について】

- ・ 一斉放送の方法について情報共有。チャイムは音が大きいので、「お知らせします」などの言葉にしていく。
  - ・ 明日の朝食は 6:30 予定。
  - ・ 明日 10 時から健康調査予定。何人かの保健師が担当・避難所を巡回する。
  - ・ 医療系は 14 時に JMAT が 1 隊来て、1 日だけの活動となる。赤石病院の医師が 1 名来る予定。その他、近くの杉山医院から内科系の患者さんへの往診も可能。真壁病院の医師も困ったら連絡欲しいとのこと。
  - ・ 明日 14 時に災害支援ナースが来る予定。
  - ・ 入浴サービスに関しては情報を集約して提示していく。体育館のシャワーも使用できる。
  - ・ 給湯室ではお湯が使用できるため、活用しても良い。
  - ・ 体育館の出入り口の出入りの時の音が大きいいため、スポンジ等で対応が必要。
  - ・ 本日の夜勤対応は行政統括、保健師、日本災害看護学会先遣隊看護師が担当。
- 22:30
- ・ 車中泊車ラウンドを 2 人チームで行い、状況を確認した。2 台あったが、1 台は就寝していたため確認できず。その他、1 台は家族で話中。
  - ・ 今後もラウンドが必要となってくる。
- 23:30 体育館ラウンド
- ・ カンテラを持ってラウンドした。ストーブを 4 機稼働しているため、火の元の安全を確認しながら、寝むれているか等や住民の状況を確認した。
- 25:50 住民対応
- ・ 咳嗽、嘔声の 50~60 才男性への対応。昨日寒かったからと話す。熱感はない。また、中学校 3 年生の息子の勉強道具を持ってきたいとのこと。受験も大事だから、状態を確認して判断してもらおうよう説明した。熱があるようなら直ぐに対応することを説明した。
- 2:15 保健師ラウンド
- ・ スリッパを履こうとして転倒している男性の方がおられたとのこと。頭部打撲となく痛みのあるところもない。スリッパに関しては今後検討する必要あり。
- 5:30
- ・ 行政の方は 1 名休まれていたが、その他 2 名は寝ていない。

#### 4. 課題

- ・ 今後、寒い季節となるため、インフルエンザや胃腸炎の流行等も考えられ、実際に感冒症状（はっきりしない）の住民の方がいることから、感染症のアウトブレイクにならないよう、手指衛生の徹

底、咳エチケットやマスクで対応することについて、口頭、ポスター等で周知する必要がある。さらに、感染者が発生時の緊急対応について検討し、保健・医療チームで引き継いでいく必要がある。

- ・ 当該避難所のトイレは和式が多く、高齢者には負担がかかっている状況の中、トイレの絶対数不足からトイレ環境悪化にもつながるため、迅速なトイレ対策が必要である。トイレへの対策を怠れば脱水や尿路感染症の発生も危惧されることから喫緊の課題である。トイレ清掃は誰が担当するなど、検討されていないことから、迅速に対応し、トイレ環境悪化や感染症の発生を予防する必要がある。
- ・ もともとの高齢化率が高い地域でもあり、高齢者の避難者が多く、避難所集約や仮設住宅への移行等、住環境が変化していくことから、コミュニティのつながり等の寸断や、心身の疲弊、ストレスの増加が考えられ、災害関連死発生を予防していく必要がある。
- ・ 車中泊の住民への対応も必要であり、DVT 等の予防のために車中避難の注意事項について注意喚起・指導や夜間のラウンド等も継続していく必要がある。また、寒くなっていく季節となり、寒さへの対応も必要である。
- ・ 今後、17日にボランティアセンターが開設される予定であるため、外部支援者への対応も増加することが考えられ、行政職員、保健師などの被災地支援者の業務負担による心身の疲弊、ストレスの増加が予測される。
- ・ 受験生を含む子供たちの学習が十分にできないことから志望校へ入学できないことや学習意欲の低下につながる恐れがあり、学習スペースを作るなど対応していく必要がある。
- ・ 行政調査では自宅2階に住みながら復旧活動される住民もあり、健康ニーズの把握が困難となることも予測される。自宅の復旧作業の進行状況、罹災証明の申請、応急仮設住宅への移行など、被災者によって被害、災害援護資金、復旧のスピード等の格差が発生し、孤立や孤独等になっていく恐れがあるため留意していく必要がある。

#### 【16日の活動予定】

- ・ 大郷フラップ避難所での活動
- ・ 災害支援ナースへの引き継ぎ

以上